

令和6年大分県観光統計調査(令和6年1月～令和6年12月・確報)の概要

令和7年 8 月 5 日
大分県商工観光労働部 観光局 観光政策課

・この調査は、従業員10人以上の県内の宿泊施設の宿泊客数(189施設 令和6年1月時点)及び、主要有料観光施設(30施設)の交流客数などを調査したものです。従業員10人未満も含む県内全宿泊施設を対象とした宿泊客数調査については、観光庁「宿泊旅行統計調査」を参照ください。

・令和6年の宿泊客数は、令和5年と比べ13.3%増加。統計を始めた平成18年以降過去最高値を記録した。

・国内宿泊客数は、令和6年と比べ8.8%増加した。

また、国内宿泊客の構成を居住地別に見ると、福岡県からの宿泊客が最も多く(構成比26.9%)、次いでその他九州(県内・福岡県除く)・沖縄(17.0%)、関東(17.0%)、からとなっている。

・外国人宿泊客数は、令和5年と比べ34.9%増加し、こちらも過去最高値となった

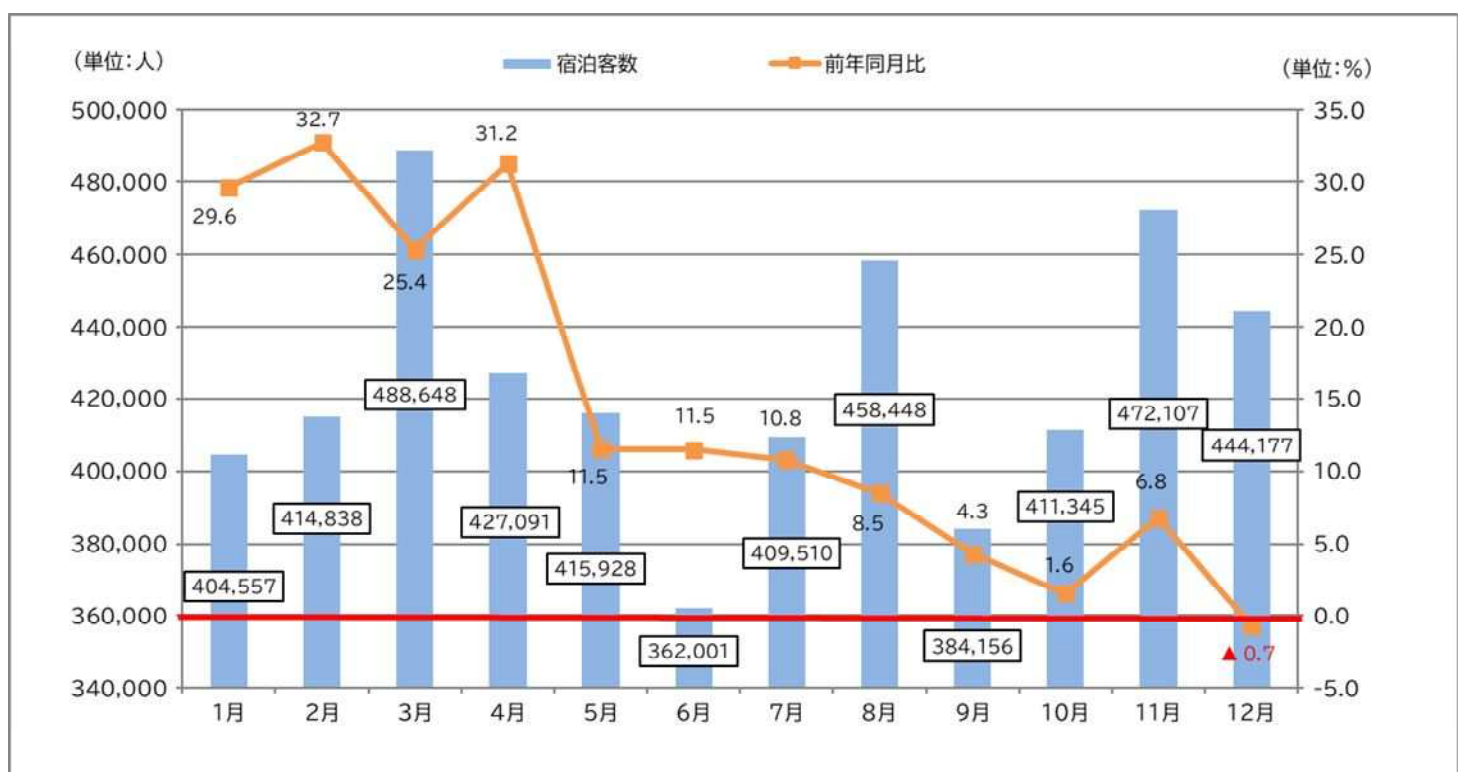
また、外国人宿泊客の構成を国籍・地域別に見ると、韓国からの宿泊客が最も多く(構成比47.8%)、次いで台湾(16.8%)、香港(13.2%)、中国(7.5%)の順となっている。

1 令和6年の県内宿泊客の動向

令和6年の県内における宿泊客数は、令和5年と比べて13.3%増加し、統計を開始した平成18年以降、過去最高値を記録した。また、外国人宿泊客数は前年比34.9%増と大きく伸び、こちらも過去最高となった。さらに、国内宿泊客数についても前年比8.8%増と順調な伸びを示している。

これらの要因としては、令和4年12月から令和5年2月まで実施された「おおいた旅得(たびとく)キャンペーン」や、4月から6月にかけて実施された「大分・福岡デスティネーションキャンペーン」などの取組に加え、何よりも観光関係者による温かなおもてなしと不断の努力によるものと考えられる。

【図表 1】令和6年別宿泊客数(確報)



2 国内宿泊客の動向

令和6年の国内宿泊客数は、令和5年と比べて8.8%増加した。【図表2】

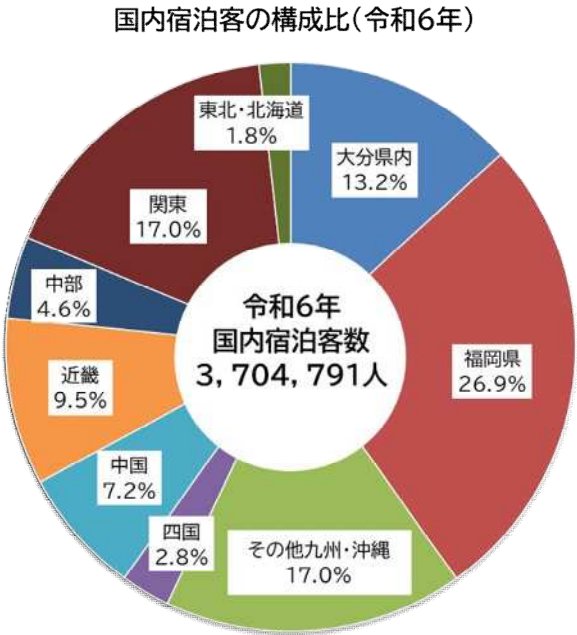
発地別に見ると、すべての地域で前年を上回った。福岡県をはじめとする九州各県からの宿泊客が特に大きく増加したほか、関東や近畿など遠方からの宿泊客も大きく伸びており、広域からの誘客が進んでいる状況である。

構成比で見ると、福岡県からの宿泊客数が最も多く、全体の26.9%を占めている。次いで、その他九州・沖縄および関東がともに17.0%となっている。

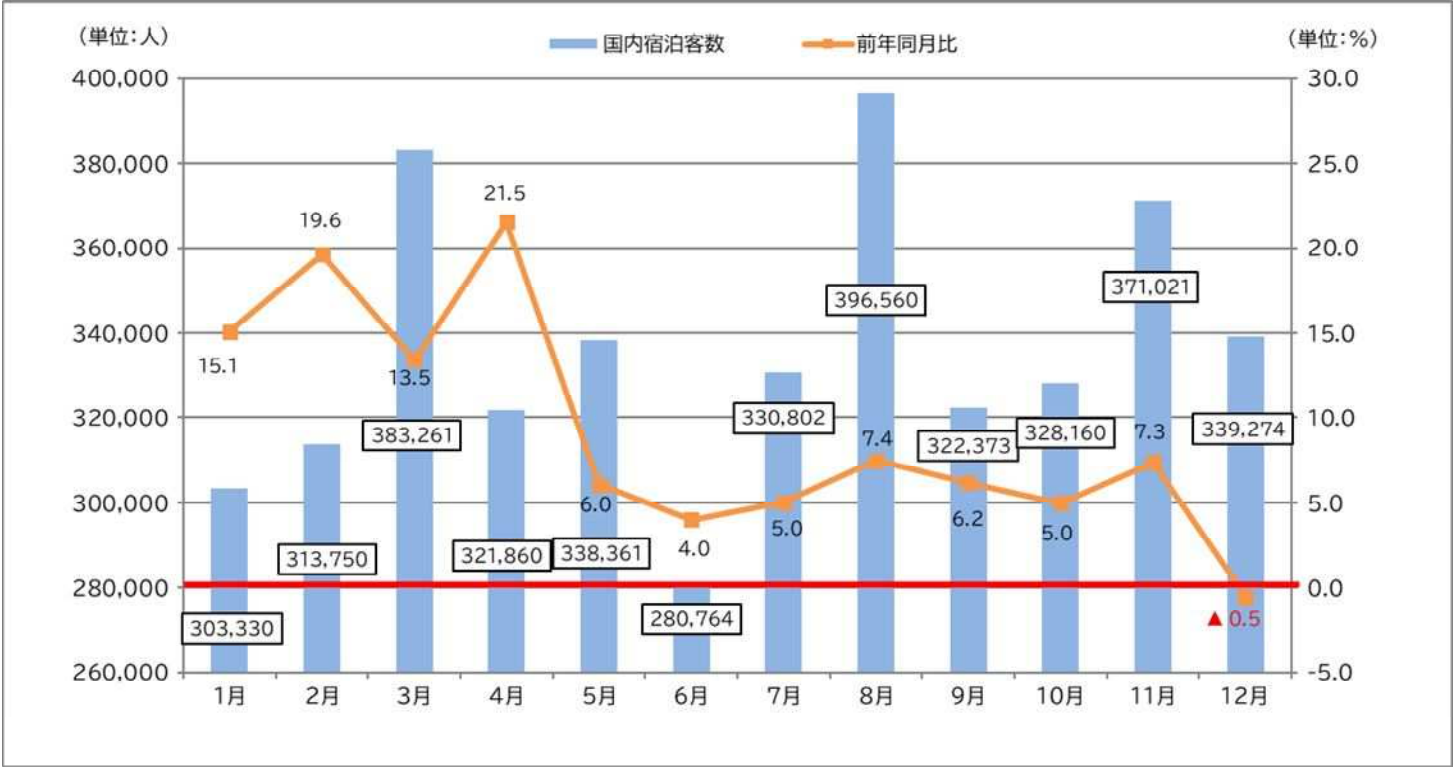
月別推移を見ると、12月を除くすべての月で前年を上回っており、12月も前年と同程度に推移している。【図表3】

【図表 2】国内発地別宿泊客数および構成比

	宿泊客数 (人)	前年比 (%)	前年増減数 (人)
大分県内	531,692	+3.6	+18,698
福岡県	1,085,179	+5.8	+59,214
その他九州・沖縄	685,576	+11.2	+68,828
四国	112,637	+22.1	+20,382
中国	288,548	+13.6	+34,642
近畿	382,969	+9.6	+33,555
中部	187,334	+14.3	+23,487
関東	683,663	+9.9	+61,576
東北・北海道	71,918	+6.4	+4,343
国内小計	4,029,516	+8.8	+324,725



【図表 3】令和6年月別国内宿泊客数



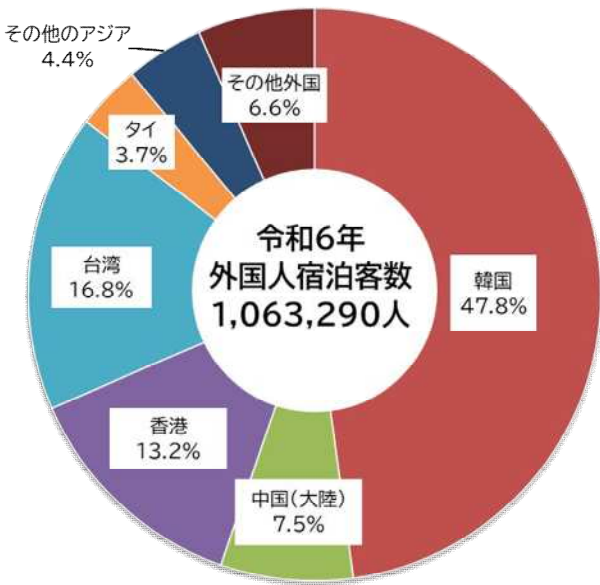
3 外国人宿泊客の動向

令和6年の外国人宿泊客数は、令和5年と比べて34.9%増加し、統計開始以降の最高値となった。【図表4】
国別に見ると、コロナ禍による減少から回復が遅れていた中国が前年比111.9%と大きく回復したほか、その他の国・地域からの宿泊客も順調に増加している。
国籍別の構成比では、韓国からの宿泊客が最も多く、全体の47.8%を占めた。ただし、中国をはじめとした各国の増加により、前年からは5.2ポイント減少した。次いで多かったのは中国(大陸)、台湾、香港の順であり、東アジア圏が全体の約85%を占めている。
月別推移を見ると、8月までは前年を上回っていたが、9月以降は昨年が好調であったこともあり、おおむね前年と同程度で推移している。【図表5】

【図表 4】外国人発地別宿泊客数および構成比

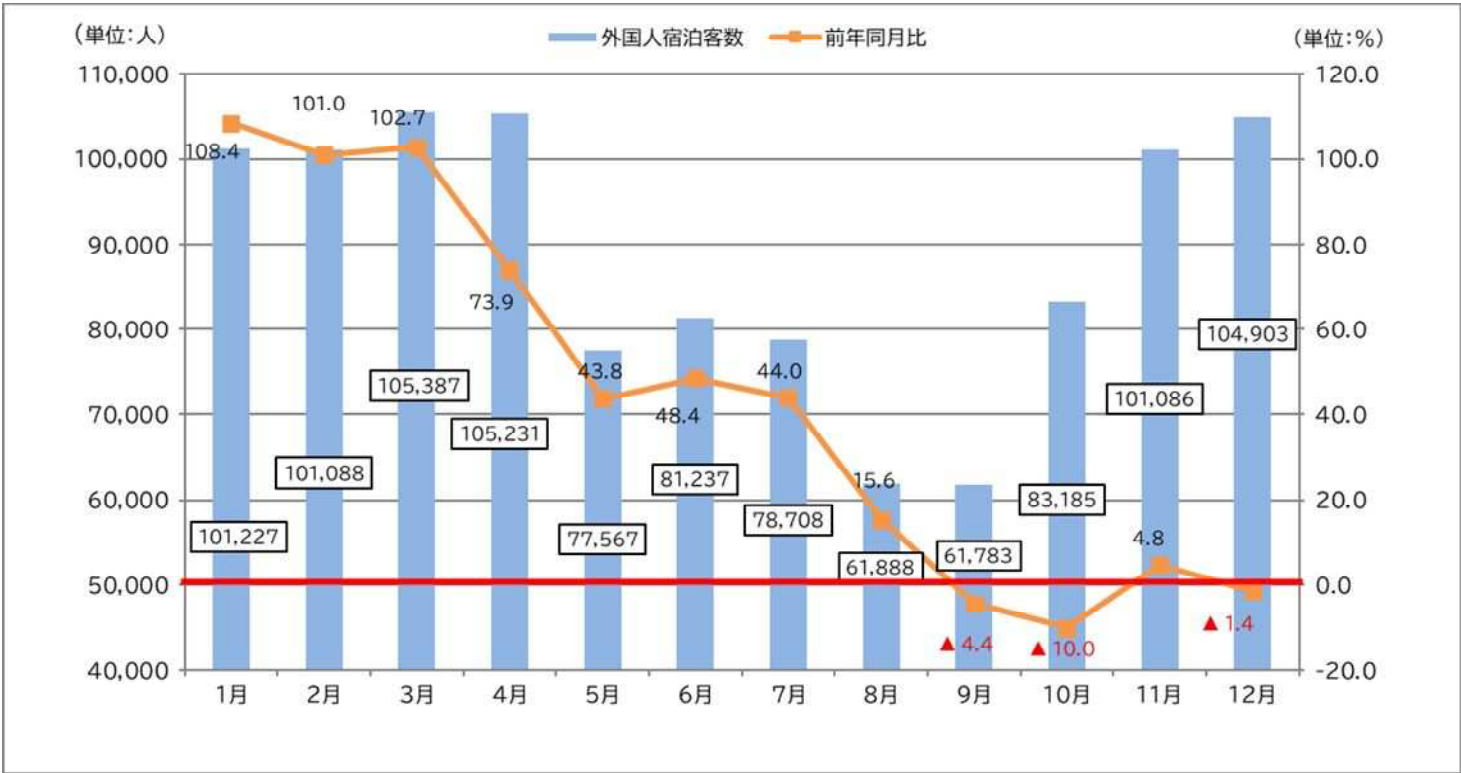
	宿泊客数 (人)	前年比 (%)	前年増減数 (人)
韓国	508,617	+21.9	+91,215
中国(大陸)	79,484	+111.9	+41,968
香港	140,144	+25.0	+28,035
台湾	178,697	+61.2	+67,821
タイ	39,260	+8.0	+2,908
その他のアジア	46,806	+51.2	+15,840
その他外国※	70,282	+63.5	+27,288
外国小計	1,063,290	+34.9	+275,075

外国人宿泊客の構成比(令和6年)



※その他外国の内
米： 22,093 人(前年比 +28.7)
英： 6,097 人(前年比 +129.8)
仏： 4,739 人(前年比 +99.0)
豪： 14,344 人(前年比 +63.3)

【図表 5】令和6年月別外国人宿泊客数



4 市町村別宿泊客

令和6年の県内宿泊客数を市町村別に見ると、別府市が最も多く、全体の49.6%を占める。前年比では大分市、別府市、由布市で増加した。一方、その他の地域では前年から減少し、特定地域への集中が見られる。【図表 6】

【図表 6】市町村別宿泊客数

	宿泊客数 (人)	前年比 (%)	前年増減数 (人)	構成比 (%)
大分市	1,353,112	+30.6	+316,838	26.6
別府市	2,526,351	+13.7	+305,306	49.6
日田市	230,329	▲3.9	▲9,466	4.5
竹田市	101,837	▲9.8	▲11,108	2.0
由布市	382,433	+15.9	+52,518	7.5
九重町	41,289	▲44.8	▲33,491	0.8
その他の市町村	457,455	▲4.3	▲20,797	9.0
県計	5,092,806	+13.3	+599,800	100.0

5 県内交流客数

大分県観光統計調査では、県内交流客数として、有料観光施設の入場者数や道の駅レジ打ち数等の項目について調査しており、その結果は以下のとおりとなった。

・有料観光施設(入場者数)	5,938,223 人 (対前年比 +3.2%)
・道の駅(レジ打ち数)	3,287,858 回 (同 ▲1.9%)
・大分空港(乗降客数)	1,905,973 人 (同 +7.9%)
・県内港湾乗降客数	1,661,441 人 (同 +5.6%)

【参考】調査対象有料観光施設¹(合計 30 施設)

屋内施設(14 施設)	市町村
大分マリーンパレス水族館「うみたまご」	大分市
大分県立美術館	
大分市立美術館	
スギノイパレス	別府市
アクアビート	
福沢旧居・資料館	中津市
中津城	
サッポロビール九州日田工場	日田市
地底博物館鯛生金山	
滝廉太郎記念館	竹田市
富貴寺	豊後高田市
安心院葡萄酒工房	宇佐市
朝倉文夫記念館	豊後大野市
国東市歴史体験学習館「弥生のムラ」	国東市

屋外施設(16 施設)	市町村
高崎山自然動物園	大分市
別府地獄めぐり(別府地獄組合)	別府市
別府ロープウェイ	
城島高原パーク	
別府ラクテンチ	臼杵市
臼杵石仏	
風連鍾乳洞	津久見市
うみたま体験パーク「つくみイルカ島」	
くじゅう花公園	竹田市
岡城跡	
昭和の町	豊後高田市
熊野磨崖仏	
真木大堂	宇佐市
九州自然動物公園アフリカンサファリ	
稲積水中鍾乳洞	豊後大野市
ハーモニーランド	日出町

¹ 平成 27 年調査から、大分県立美術館、大分市美術館を対象施設として追加した。
平成 30 年調査から、マリンカルチャーセンター、九州湯布院民芸村を対象施設から除外した。
令和 3 年調査から、中津城、うみたま体験パーク「つくみイルカ島」を対象施設として追加した。